



医療と福祉を考える情報交換会

歩みの会通信

発行日
令和3年9月25日

第3号

歩みの会事務局 藤沢市辻堂太平台1-3-1 坂本眼科湘南クリニック内 発行人 会長 坂本 則 敏



コロナ禍に思うこと

副会長 齊藤 信義

会員の皆様にはこのコロナ禍、如何お過ごしでしょうか。

8月に入り神奈川県下の新型コロナウイルス感染者が一日に2,000人を越えており、コロナウイルスが猛威をふるっております。

コロナ禍では、我々の用語で「生活の質」(quality of life)が大変低下しております。いや、lifeは生活でなく人生と訳して「人生の質」が低下しています。口角泡を飛ばして議論する、肩を叩き合って酒を飲む。これはごく普通の行為とっておりましたが、これができないのです。



では、対策は？

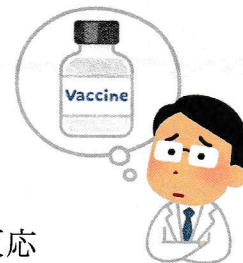
政府は人流の減少とワクチン接種の2題をメインテーマとして頑張っていますが、十分な効果が出ておりません。やはり、切り札はワクチン接種と思います。



体力のない高齢者は重症化しやすいという理由から接種は高齢者から始まりました。将来があり行動力のある若者の接種が後回しになったのです。

コロナを撲滅するには弱者を大切にするという美しい発想でなく、若者こそ最初に接種すべきだと思います。

8月25日現在、藤沢市のワクチン接種率は県下で最低の水準です。これはワクチンの供給が滞っているためと聞いております。藤沢市の担当職員の奮闘を期待します。

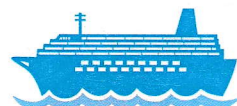


ところで、ワクチン接種を拒否する若者がいるそうですがワクチンの副反応を恐れてでしょうか。ワクチンの副反応は副作用と違い、ワクチンに対する人間の生理的免疫反応であって、それほど恐れる事はないと思います。今、ワクチンの摂取率を上げることが急務です。ワクチン接種済の証明書がないと入場できないというくらいの強行処置をとって、若者に公衆衛生の重要性を悟らせたいと思います。

そして、コロナが収束してマスクをとって「歩みの会」で皆様にお会いしたいですね。それまで「我慢」です！



私の中のコロナ禍



入澤 淑江

令和2年1月のダイヤモンドプリンセス号から日本のコロナ禍は始まりました。

しかし、その頃の私（私たち一般国民）はまだ他人様の様にニュースを見ていました。その程度の認識を持つ私は2月には呑気に宮古島へゴルフに行きました。飛行機内は満席。しかしほぼ全員がマスクを着用して今までとは違う異様な雰囲気が出てきていました。

そして3月になると、私の仕事（パソコン教室、出張セミナー）にも影響が出てきました。

まず出張セミナーは集団で行うために「密を避けるため」と続々とキャンセルになってきました。そして、お教室の生徒様もシニアの方が続々と休会届が出されてきました。

更に4月になると緊急事態宣言が出され、お教室も約1ヶ月休校する事になりました。自分自身も家から出られ無い状態で、今後どうなるのだろうか？と不安ばかりの日々でした。

しかし戦時中と違って、今はネットが普及していて本当に良かったと思います。色々な情報を友人たちと共有でき「自分だけではない」と安心したり、経営者仲間や議員さんの進めにより持続化給付金や雇用調整助成金などを活用し、金銭的不安はかなり取り除く事が出来ました。

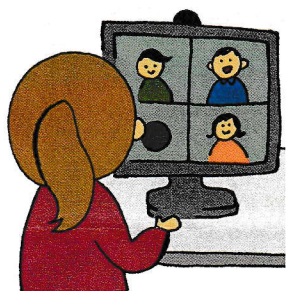
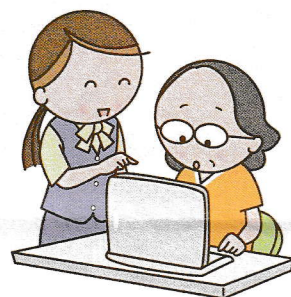
そして6月に入ってくると、状況が一変しました。世の中が「オンラインブーム」になってきたのですが、使えない人が多かったのです。

出張セミナーでは「ZOOMの使い方」の依頼がバンバン入ってくるようになりました。「密を避けるためのオンライン会議」で使用するZOOMが使えないので、皆さんに集まって頂いてZOOMセミナーを行うという本末転倒になってしまうようなセミナーですが、昨年だけで100回程のセミナーをやらせて頂きました。

そしてお教室には「在宅勤務になったのはいいけれど、一人ではワードやエクセルが使いこなせていなく周りに聞ける人がいないから」と通常だったら日中のパソコン教室には通えない「勤労者」の方達が入会されてきました。「捨てる神あれば拾う神あり」です。どこかに必ずビジネスチャンスと言う物が有るんだな～と感じた1年でした。

今春からはお教室も出張セミナーも元のような状況に戻つつあります。しかし、コロナ禍はまだまだ続いています。そしてコロナ後の世界はきっと今まで通りとはならないのかなと想像しています。

これからも、皆様のお力添えを得て頑張っていきたいと思っております。



そしてお教室には「在宅勤務になったのはいいけれど、一人ではワードやエクセルが使いこなせていなく周りに聞ける人がいないから」と通常

ピンチはチャンス！
コロナに負けず
頑張らましょ！！





「歩みの会」会報に寄せて

北 島 健 晴

自己紹介させていただきます。1950年12月25日藤沢生まれで、ほとんど藤沢育ち。バースデーケーキにはいつもMerry Christmasと書いてありました。

中学校に入った時、よく家に遊びに来ていた1歳年上で近所の小林千秋という子がいて（後に「ちあき哲也」の名で「飛んでイスタンブール」「吾亦紅」がヒットして有名になった作詞家）彼に誘われて入った部活が演劇部で、以来大工修業時代を除き20年近く舞台スタッフに関わることになりました。茅ヶ崎高校卒業後大工職人を目指して、茅ヶ崎市菱沼に住み込みで5年働くことになりましたが、今とは大違いで、勤務時間は明るくなったら始まり、夜は練習を含めて11時頃まで、休日は半日ずつ月に2日、仕事中は朝から晩まで怒られていました。連休は正月とお盆の2回、不満は数え上げればきりがなし。それでも先輩達からは「お前は楽してる」とよく言われました。1年目は箒と塵取りしか持たせてもらえませんでした



が、2年目にお寺の普請があり、仕事の出来なかった私は大親方の手元（使い走り）に付き、伝統工法を間近に見て、素晴らしさを感じ、今に至るきっかけとなりました。後から聞いた話ですが、先輩達は羨ましかったそうです。

現在70歳を過ぎ、細々と工務店を続けていますが、夢があります。それは地震で被災しても、生活に被害が出ない住宅を造る事です。高層ビルの免震工法はかなり普及していますが、一般住宅では高価でまだまだ普及していません。もっと安価で、効果もある工法の確立を目指しています。東北地震の時に藤沢では震度5

（地盤により差があります）程度でしたが、15年間に弊社で造った



免震住宅に住んでいるお客様は「TVを見るまで気が付かなかった」とおっしゃるくらいに効果がありました。近年起こると

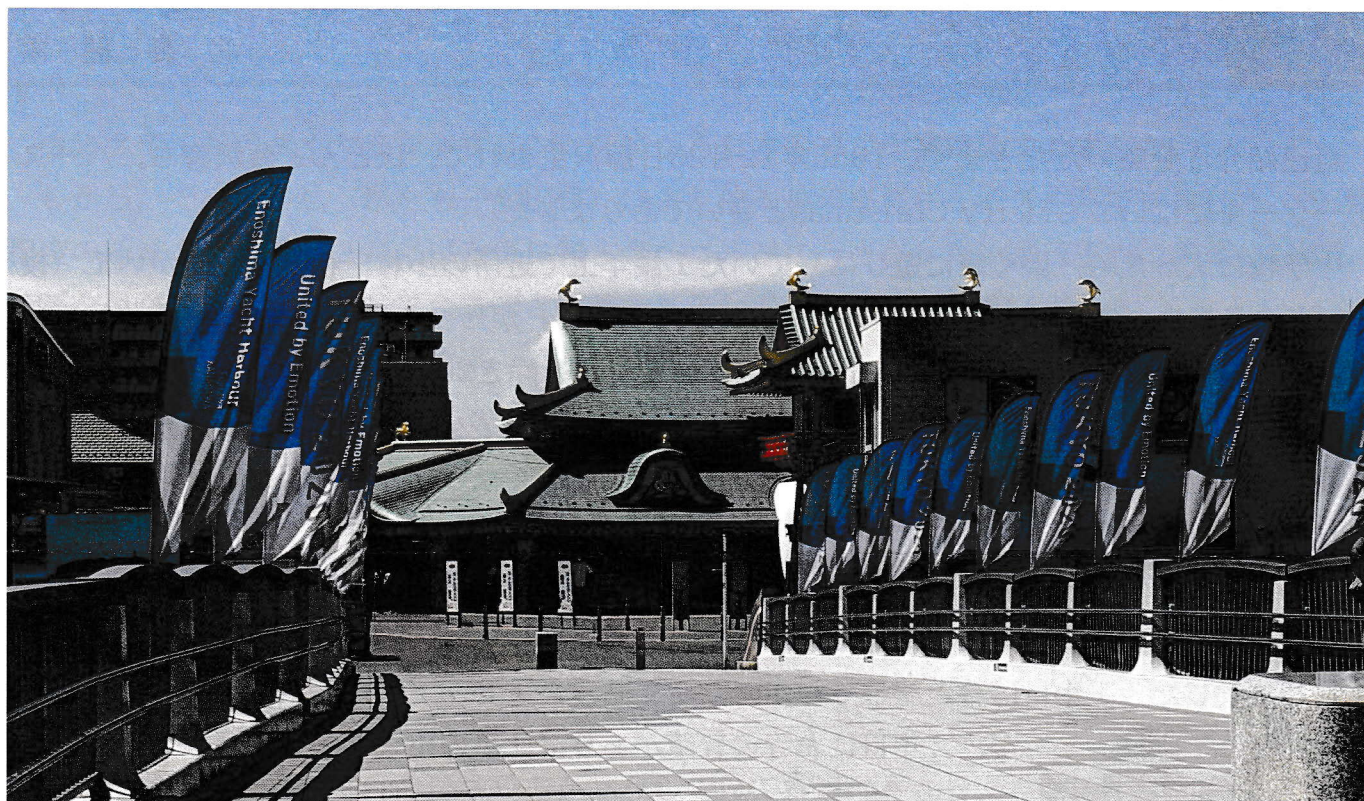


言われている大地震に対し、室内を含めて、無傷の帰るべき家があれば、被災してもその後の生活に不自由さは少ないはずで、普及できる価格を実現できるように、現在震動実験を重ねて、今後4年以内に一般戸建て住宅にも普及が始められるように計画しております。

今、掃除から始まった職人道の最終目標へと続く道が、かすかに見えてきました。私の知っている狭い世界の見方ではありますが、歩みの会にお集まりの皆さんは、方向こそ違え、各職業を極めた職人さんだと思います。「職人」とはお客様の為に「自分だからこそ何ができるか」を、惰性に流されずに真剣に考え、努力している人だと思っています。



皆様の今後の更なる御活躍を祈念申し上げます。



東京2020オリンピックセーリング会場 小田急片瀬江ノ島駅前

本来ならば沢山の人で埋め尽くされたであろう駅前広場と弁天橋。オリンピック開催を見越しての駅舎の改修や駅前の混雑問題で行政と何度も話し合いをしてきたが、その労力も虚しく閑散とした風景となってしまった。

●年会費について

新型コロナウイルス感染防止の観点から、例会が開催できません。
年会費の納入を振り込みにてお願いいたします。
なお、ドネーションも任意受け付けております。

振込先 かながわ信用金庫 藤沢営業部
普通 2156674
歩みの会（アユミノカイ）

編集後記

皆様、残暑厳しいおり如何お過ごしでしょうか。現在も、コロナ禍のなかにあり、歩みの会の活動も自粛を余儀なくされています。

第3回の会報をお届けします。皆さまの近況を是非知りたく存じます。自主投稿も歓迎いたします。

歩みの会会長 坂本 則敏

